

科目名	成人聴覚障害（成人視覚聴覚二重障害含む）			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間 1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2年 前期
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 聴覚障害を引き起こす難聴は、成人にとっては身近なものです。聴覚面からの理解と支援の知識を学習し、聴覚障害専門機関での勤務に限らず、言語聴覚士として、将来関わる人とその関係者への理解と支援の資源になることをねらっています。							
<b>【実務者経験】</b> 言語聴覚士として、大阪医科大学附属病院耳鼻咽喉科、健寿協同病院、中国補聴器センター、児童発達支援センター岡山かなりや学園、児童発達支援事業所ぐるぐるめろん島（めろんグループ）にて、成人と小児の聴覚障害分野及び小児の発達障害分野の検査と指導・療育に従事した。 現在は、岡山県更生相談所にて聴覚障害分野での検査・評価と、児童発達支援事業所アート・チャイルドケアSEDスクール岡山豊成教室にて小児の発達障害分野での評価・療育に従事している。							
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 「小児聴覚障害」との関係から、青年期を本授業に含める。評価とリハビリテーション・支援に重点を置き、教科書を軸に、DVDの視聴や読話・手話・点字、等の体験も行う。授業内容の復習として、小テストを10回行う。また、全体の復習と補充を兼ねて、国家試験の過去問題にも取り組む。							
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 1. 難聴・聴覚障害をもつ成人に対し、多面的に評価ができる。 2. 聴覚障害をもつ成人に対し、対象者に適した支援策を立案することができる。 3. 国家試験過去問題の内、関連領域の問題に正答できる。							
回数	講義内容					準備物(教材)	
1	聴覚障害を聴覚機能との関連から説明できる。					教科書、配布資料	
2	聴覚障害のリハビリテーションの歴史と現状を説明できる。 小テスト1回目					教科書、配布資料	
3	聴覚機能を評価することができる。 小テスト2回目					教科書、配布資料	
4	障害認識を評価することができる。 小テスト3回目					教科書、配布資料	
5	「読話」について説明ができる。また、短い文を読話でき、読話し易い話し方もできる。 小テスト4回目					教科書、配布資料	
6	「指文字」「手話」などの動作言語について、説明することができる。また、指文字や手話での簡単な会話を読み取れ、挨拶や自己紹介もできる。					教科書、配布資料	
7	「筆記」でのコミュニケーションについて、説明ができ、読み易い書き方ができる。					教科書、配布資料	
8	「コミュニケーション・ストラテジー」について、評価することができる。					教科書、配布資料	
9	言語獲得前発症例に対して、評価と指導・支援案作成ができる。 小テスト6回目					教科書、配布資料	
10	成人期発症例に対して、評価と指導・支援案作成ができる。 小テスト7回目					教科書、配布資料	
11	高齢期発症例に対して、評価と指導・支援案作成ができる。 小テスト8回目					教科書、配布資料	
12	盲ろう者の障害について、説明ができる。 小テスト9回目					教科書、配布資料	
13	盲ろう者のコミュニケーション手段や介助について、説明ができる。 小テスト10回目					教科書、配布資料	
14	聴覚障害者に対する、情報保障の方法や社会資源について、説明ができる。					教科書、配布資料	
15	国家試験過去問題の内、関連領域の問題に正答できる。					教科書、配布資料	
	定期筆記試験						
<b>【使用教科書・教材・参考書】</b> 標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版							
<b>【準備学習・時間外学習】</b> 授業中に教科書を輪読するので、予習として教科書の音読をしておくこと。							
<b>【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】</b> 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 小テスト（10回実施）を50点、定期試験を50点として合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。							